

「品質の仲間」 づくりに向かって



(株)デンソー
若林 宏之

日本品質管理学会員の皆様こんにちは。日本品質管理学会の第53年度会長を拝命しました若林宏之です。どうぞよろしくお願いいたします。

私はコロナ禍の蔓延する第50年度は二橋会長のもとで、第51年度そしてコロナ第5類移行の第52年度は永田会長のもとで3年間本学会の副会長を拝命しておりました。

この3年間の活動は第50年度からの3ヶ年中期計画に基づく各年度計画として実行されましたが、コロナの蔓延は予定外で第50年度の記念行事は中止となり、研究発表会、講演会などの各種行事も対面を避けてオンライン中心となりました。ただ、これは悪いことばかりではなく、以後オンラインや対面とオンラインのハイブリッドなどむしろ会員の利便性向上に効果がありました。

一方現在の会員状況についてですが、賛助会員は皆様のご努力もあって微増していますが正会員の減少には歯止めがかかっていません。私は3年間副会長として「品質の仲間」づくりということを申し上げてきました。「品質」誌の副会長巻頭言でも毎年同じことを言ってきました。今年度も引き続き会長としてこの言葉を掲げていきたいと思えます。

第53年度である今年度の活動内容も次の3ヶ年中期計画を議論したうえで策定し、その中身を昨年11月11日の第53回年次大会で報告しました。

これは、先の3ヶ年中期計画の中で策定された日本品質管理学会のミッション「あらゆる Quality (質) 向上に役立つ技術・手法を研究・開発しその成果をすべての分野に普及させる」とビジョン「Qの確保、Qの展開、Qの創造を通して我が国の生産性・国際競争力を再び世界トップに押し上げるとともにその成果をもって国際社会の発展に貢献する」をしっかりと継承したうえで、3つの活動の柱であ

る A. 会員・賛助会員にとって魅力ある学会づくり、B. 品質管理の正しい理解と普及促進による、安心で豊かな社会の実現への貢献、C. 更なる会員サービスの向上を重点実施事項としています。その中で活動の柱 A. に関しては、今年度の新たな取り組みとして AI 品質のガバナンス強化、モノづくりにおける工程内ビッグデータを用いた品質管理を取り上げ、それぞれ企業内での開発・活用時のガイドラインの明確化、解析ツール提供やそれらを用いた改善事例の共有を目指します。また活動の柱 B については活動の柱 A とも関係しますが、AI、ビッグデータ活用へ繋がる小・中・高への品質・統計教育支援を新たに掲げて、これまでの問題解決の教育支援にデータ駆動型問題解決支援を加えて教員の本学会への入会促進も図っていききたいと思います。

昨年には自らの活動の質、自組織のマネジメントの質を正視しそれらの質を琢磨することを目指して品質関連5団体による日本クオリティ協議会 JAQ が発足しましたが、本年度はこの JAQ の活動を通じて「品質の仲間」づくりを加速していきたいと考えます。また活動の柱 B の中で国際化の推進として ANQ (Asian Network for Quality) 総会への積極的参加を掲げており、2024 年日本開催 ANQ 総会を成功に導きアジア・日本の Quality をアピールしたいと考えます。

活動の柱 C は更なる会員サービスの向上ですが、事務業務の効率化に加えて活動の柱 A、B の取り組みを積極的に発信することで本学会員であることの魅力を感じて頂けるようにしていきたいと思えます。

以上の本学会の施策のもとで幅広い分野の方々に「品質の仲間」になっていただけるよう現会員の皆様の積極的なご参画をよろしくお願いいたします。